

医政安発 0311 第 2 号
令和 8 年 3 月 11 日

別記関係団体の長 殿

厚生労働省医政局地域医療計画課
医療安全推進・医務指導室長
(公 印 省 略)

医療事故の再発防止に向けた警鐘レポート No. 5 の公表について

医療行政の推進につきましては、平素から格別の御高配を賜り厚く御礼申し上げます。

医療事故調査制度につきましては、平成 27 年 10 月から、医療事故が発生した医療機関において院内調査を行い、医療事故調査・支援センター（以下「センター」という。）において、その調査報告を収集し、整理・分析することで医療事故の再発防止につなげ、医療の安全を確保することを目的として実施されております。

また、センターは再発の防止に関する普及啓発を行うこととされており、今般、医療事故の再発防止に向けた警鐘レポート No. 5 として、「血管内治療時の大腿動脈穿刺に伴う後腹膜出血による死亡（以下「レポート」という。）が公表されましたのでお知らせします。

貴職におかれましては、同様の事例の再発防止及び発生の未然防止のため、レポートの内容を御確認の上、貴会会員施設等に対する周知をお願いします。

レポートにつきましては、センターのホームページ (<https://www.medsafe.or.jp/>) にも掲載されていますことを申し添えます。

<別記>

国家公務員共済組合連合会理事長
社会福祉法人恩賜財団済生会理事長
社会福祉法人北海道社会事業協会理事長
公益社団法人全国国民健康保険診療施設協議会会長
公益社団法人全国自治体病院協議会会長
公益社団法人全日本病院協会会長
総務省自治行政局公務員部福利課長
公益社団法人日本医師会会長
一般社団法人日本医療法人協会会長
公益社団法人日本看護協会会長
公益社団法人日本助産師会会長
公益社団法人日本歯科医師会会長
一般社団法人日本私立医科大学協会会長
公益社団法人日本精神科病院協会会長
一般社団法人日本病院会会長
日本病院団体協議会会長
公益社団法人日本薬剤師会会長
全国厚生農業協同組合連合会代表理事長
日本赤十字社社長
独立行政法人労働者健康安全機構理事長
独立行政法人国立病院機構理事長
一般社団法人日本慢性期医療協会会長
一般社団法人全国公私病院連盟会長
一般社団法人国立大学病院長会議事務局長
健康保険組合連合会会長
公益社団法人日本歯科衛生士会会長
公益社団法人日本歯科技工士会会長
一般社団法人日本病院薬剤師会会長
公益社団法人日本診療放射線技師会会長
一般社団法人日本臨床衛生検査技師会会長
日本製薬団体連合会会長
公益社団法人日本臨床工学技士会理事長
一般財団法人医療関連サービス振興会会長
公益社団法人全国ビルメンテナンス協会会長
公益社団法人日本医業経営コンサルタント協会会長
一般社団法人日本衛生検査所協会会長
一般社団法人日本病院寝具協会理事長
一般社団法人日本精神科看護協会会長
防衛省人事教育局衛生官

公益社団法人全国老人保健施設協会会長
国立研究開発法人国立がん研究センター理事長
国立研究開発法人国立循環器病研究センター理事長
国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター理事長
国立研究開発法人国立成育医療研究センター理事長
国立研究開発法人国立長寿医療研究センター理事長
国立健康危機管理研究機構理事長
宮内庁長官官房秘書課長
法務省矯正局矯正医療管理官
一般社団法人全国医学部長病院長会議会長
国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構理事長
独立行政法人地域医療機能推進機構理事長
公益財団法人日本医療機能評価機構理事長
公益社団法人日本産婦人科医会会長
日本医学会会長
一般社団法人日本看護系学会協議会会長
日本歯科医学会会長
一般社団法人日本医療薬学会会頭
一般社団法人医療の質・安全学会理事長
一般社団法人医療安全全国共同行動議長
一般社団法人日本美容外科学会（JSAPS）理事長
一般社団法人日本美容外科学会（JSAS）理事長
一般社団法人日本医療安全学会理事長

血管内治療時の大腿動脈穿刺に伴う 後腹膜出血による死亡

大腿動脈穿刺による後腹膜出血で死亡した事例が7例^{*}報告されています。

- ・高位穿刺（鼠径靭帯より頭側の動脈に穿刺）と考えられた事例：6例
- ・後腹膜出血の診断：心停止・呼吸停止後4例、死亡後2例
- ・止血デバイス使用：6例

※医療事故調査制度開始から9年間の件数

！ 後腹膜出血の発見の遅れ

【事例の経過及び徴候・症状】

徴候・症状出現

対症療法で経過観察

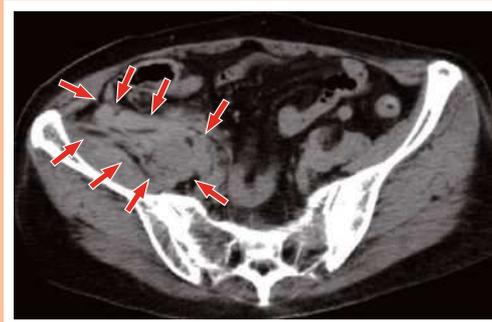
血圧低下
頻脈
腰背部痛 腹痛
嘔気 嘔吐
冷汗
見当識障害など

ショック

心停止・呼吸停止

心停止・呼吸停止以後に
「後腹膜血腫」と診断

死亡



〔後腹膜血腫のCT画像の一例〕

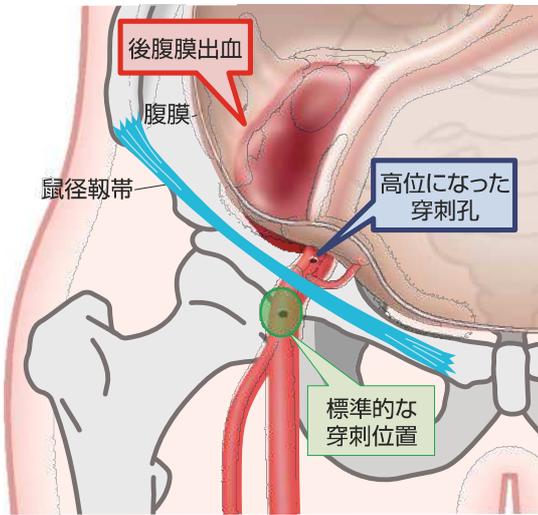
対策

刺入部に出血や腫脹が認められなくても、血圧低下や腰背部痛などが持続する場合は、後腹膜出血も疑い、CT検査を検討する。

血管内治療時の大腿動脈穿刺に伴う後腹膜出血による死亡

◎高位穿刺は後腹膜出血になりやすい！

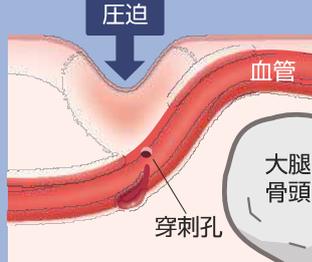
■高位穿刺（鼠径靱帯より頭側の動脈に穿刺されていること）



高位穿刺による後腹膜出血

高位穿刺になると・・・

□止血のための圧迫効果が得られにくい
(止血デバイスを使用した場合を含む)



- 血管周囲に支持結合組織が少ない
- 穿刺孔のすぐ下に硬い骨がない

□出血が後腹膜腔に貯留しやすい
※体表から発見しにくい

※イメージ図

◎高位穿刺を回避するための確認ポイント

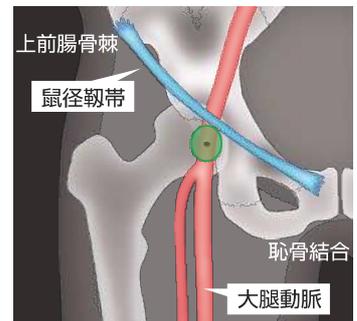
・鼠径靱帯（上前腸骨棘と恥骨結合の間）【視診・触診】

※ドレープをかけると限られた範囲しか見えないため、穿刺位置が確認しにくい場合がある

・大腿骨頭の位置【X線透視】

・血管の位置と皮膚表面からの深さ【超音波】

※血管の狭窄、拡張、石灰化などの有無も確認する



標準的な穿刺位置 ※イメージ図

! 事例概要

事例
1

90歳代。内頸動脈狭窄症で頸動脈ステント留置術を施行。
抗血栓薬を3剤服用中。

血管内治療時に大腿動脈を穿刺。治療後、止血デバイスおよび用手圧迫で止血。血圧が低下し、昇圧剤を投与。鎮静をかけたまま帰室。刺入部の腫脹、硬結なし。再度、血圧が低下し、昇圧剤を増量。ヘモグロビンが低下し、輸血を準備。帰室から約1時間半後、CTで大腿動脈穿刺部近傍に後腹膜血腫を確認した直後、心肺停止となり死亡。

事例
2

70歳代。下肢閉塞性動脈硬化症（膝窩動脈以下閉塞）で経皮的血管形成術を施行。
抗血栓薬を2剤服用中。

血管内治療時に大腿動脈を複数回穿刺。治療後、止血デバイスで止血。帰室後、穿刺した側の腹痛あり。約1時間後、刺入部の出血、腫脹なし。約3時間後、便失禁、嘔気、嘔吐あり。その後、背部痛、顔面蒼白、頻脈あり。血圧が低下し、昇圧剤を投与したが、心停止。心拍再開後にCTで後腹膜血腫を確認し、帰室から約15時間後に死亡。

※ 事例概要は、院内調査結果報告書をもとに専門分析部会が整理し作成しています。その他の事例は、ホームページをご覧ください。 [警鐘レポート](#)



*警鐘レポートは、専門家で構成された専門分析部会が検討・作成し、再発防止委員会で承認されたものです。

*警鐘レポートは、報告された死亡事例をもとに、死亡に至ることを回避するという視点で作成しており、これらの対策ですべての事象を回避できるものではなく、また、個別の患者の状況等によりこれらの対策が困難な場合や、最善でない場合も考えられます。

*この内容は将来にわたり保証するものではなく、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課したりするためのものではありません。